平成二十四年九月一日 発行
昭和二十二年一月二十四日（第三種郵便物認可）
明治二十八年創刊 毎月一日・十五日発行

ときのこえ Good News for Japan

私は戦う！ 最期に至るまで戦う！

勝地 次郎

創立者
ウイリアム・ブース

「今日そうであるように、女性たちが泣く限り、私は戦う。今日そうであるように、幼い子どもたちが飢える限り、私は戦う。今日そうであるように、男たちが刑務所に出入りする限り、私は戦う。酔漢が残っている限り、街頭に哀れな失われた娘がいる限り、神の光を受けない一人の暗黒な魂でも残っている限り、私は戦う。私はまさに最期に至るまで戦う！」

この言葉は、救世軍の創立者（初代救世軍大将）ウイリアム・ブースの最後の公開演説の末尾を飾る言葉として知られています。

ブースは、一九一二年八月二十日に天に召されていますが、それに先立つ五月九日、ロンドンの王立アルバート館（現在のロイヤル・アルバート・ホール）で、救世軍の創立以来の働きに言及しながら、その働きの根幹にあった思いをこの言葉に凝縮し、後に続く救世軍の信徒たちを奨励したのです。それから百年を経た現代においても、この言葉は決して色褪せず、より良い社会の実現を目指す人々に、同じ思いで連帯することを呼びかけています。

ブースの働きは、一八六五年七月、東ロンドンの貧民窟で特別伝道に従事することから始まりました。当時のイギリスは産業革命後の社会的混乱の中、失業者が増加するなど治安が悪化していましたが、東ロンドンは最も治安の悪い地域でありました。

『ブラインド・ベガー』という居酒屋の前で立ち止まったブースは、一冊の書物を取り出し、賛美歌の一節を読み上げ、こう叫んだのです。

「東ロンドンのすべての人に天国がある！ 立ち止まって考え、キリストを救い主として信じる者には天国がある！」

居酒屋の窓から注がれる酔っ払いの視線。やじや罵声、ブースの周りに群がる多くの人々。そしてその後ろから投げられた卵が彼の顔に命中して、黄身がゆっくりと頬を伝わって流れる。その時、ブースは話を中止して静かに祈り、帽子を目深にかぶって、急ぎ足で立ち去りました。

ブースの説教に耳を傾けなかった多くの人々。しかし、ブースの心には、彼を救い、聖め、伝道者として召してくださった主イエスの「憐れみの心」が強く刻まれていたのでしょう。彼は、

「どこに行ってこんな異教徒（真の神を知らない人）を見いだし得るだろうか、お前の勤労をこれほどに多く要する場所があろうか？」

と心に示され、帰宅後、妻のカサリンにこう告げたのです。

「今にして自分の終生の運命を発見した。」

そして、神を知らない人々の救いのために、妻と共に立ち上がり、救世軍の働きを起こしたのです。

主イエスは、その伝道の始めにこう言われました。

「悔い改めよ。天の国は近づいた」（マタイによる福音書4章17節）

天の国！ それは神の支配を意味しており、そこにおいてこそ、人は「罪赦された幸いな人」として生きることができ、

「神は、その独り子をお与えになったほどに、

（次頁一段目に続く）

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

（前頁より続く）

世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネによる福音書3章16節）

という神の約束にあずかることができるのです。

ブースが説いた天国―それは主イエスが説いた「天の国」でありました。主イエスは、深い同情心をもった方でもあります。

「群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」（マタイによる福音書9章36節）

という聖書の記述は、主イエスの同情心が深く、豊かなものであったことを示しています。「憐れみ」という言葉は「はらわた（内臓）が痛むほどに同情する」という意味であり、主イエスは、単に心が痛む以上の痛みをもって、苦しみ悩む人々のことを思いやられたのです。ブースが東ロンドンの人々に抱いた同情心は、主イエスの同情心に促されたものであったことでしょう。

第六代救世軍大将となったアルバート・オスボーンが作詞した歌では、このように歌われています。

救い主イエスは昔
人をあわれみて
み救いを与うるため
心をくだきぬ
今も人は主にそむき
み恵みを知らず
悲しみて羊のごと
闇路をさまよう
主の霊よくだりて
あわれみを満たし
愛を告げ愛をおこのう
者となしたまえ

ブースの死を悼んでロンドンの多くの人々が葬列を見送った

© 救世軍歌集226番

この歌で歌われている心こそ、主イエスの心であり、ブースの心であり、救世軍の信徒の心なのです。

ブースが叫んだ「今日の現実」は、十九世紀後半のイギリスの現実のみならず、現代の日本の現実とも言えるでしょう。ドメスティックバイオレンス（家庭内暴力）に泣く女性たち、虐待による傷を心身に受け、愛に飢える幼い子どもたち、法律を犯し罪の一線を越えてしまった男たち、ストレスの解消をアルコールに求めアルコール依存に陥った人々、将来に確かな人生の土台を見いだすことができず、一時の享楽を求めて巷をさまよう少女たち。彼らもまた、ブースが言う「神の光を受けない暗黒の魂」であるのです。今や、世界の百二十四の国と地域で活動することになった救世軍の働きは、この「神の光を受けない暗黒の魂」の救いを目指したものであり、彼らの人生を光と喜びと平和へと導くためでありました。

救世軍に属する信徒の生活目標として、こんなことが掲げられています。

―神には感謝と信頼、隣り人には親切、家庭においては思いやり、商売においては正直、社会においては忠実、事においては忍耐、不幸な人々には同情、弱い人々には助力、悲しむ人々には慈愛、邪悪に対しては抵抗、意思の強い人々には喝采、悔い改める人々には寛容、幸運な人々には祝意、霊魂の救いには熱意、自分としては心の平安、世界には平和―

ここに、神の光を受けた幸いな人の姿があるのです。

居酒屋の前で説教したブースに対して、罵声を浴びせた人々、ブースが説く天国の恵みを容易に受け入れなかった人々の中からも、救われ、新しい人生を歩む人たちがたくさん現れました。そして、彼らもまた、「他の人を救うために救われた」者として、ブースと共に神の愛を伝えるために立ち上がったのです。

救世軍が毎年九月におこなう感謝祭募金は、ブースが憂慮した「今日の現実」に真の光をもたらすことを期して、多くの方々に「愛の連帯」をお願いするためのものです。今年も、ご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

ブースは、今の世に生きる人々にも呼びかけていることでしょう。

「あなたもキリストを信じ、天国の幸いを知る人になっていただきたい。あなたも私と共に神の愛を伝えるために立ち上がっていただきたい。……私はまさに最期に至るまで戦う！」

（救世軍士官（伝道者）・書記長官）

ウイリアム・ブース　召天百年記念集会

救世軍の創立者ウイリアム・ブースが天に召されて百年を迎えたことを記念して、二〇一二年五月二十六日（土）、二十七日（日）に、創立の地イギリス・ロンドンでおこなわれました。ブースの生前最後の公開演説の中で何度も強調された「アイル・ファイト」（私は戦う）という言葉を冠し、「アイル・ファイト・コングレス」（I'll Fight Congress）という集会名がつけられました。

ブースが演説したのと同じロイヤル・アルバート・ホールに、救世軍の信徒たちが集まり、礼拝と共に、創立者を偲び、神を賛美するいくつかの集会をおこないました。リンダ・ボンド現救世軍大将は、会衆と、インターネットで集会を見守る世界中の人々に向かって、救世軍は、現代の様々な問題に戦いを挑みつつ神の愛を届け続ける、と語り、「あなたがどこにいようとも、『主よ、私は戦います。私は終わりまで戦います』と応答するように」とメッセージしました。救世軍創立の目的・精神を変わらずに保ち、さらに働きを推し進めるために心燃やされる二日間となりました。

青年たちによる賛美

ブースを題材にしたミュージカルの一場面

メッセージを語るボンド現大将

十字架にかたどられた恵の座（祈りの場所）で祈る人々

〈信仰の体験談〉

神様の愛の内に生かされて

松岡　末子

救世軍清瀬小隊（教会にあたる）にお導きいただけましたこと、このことを思う時、私は、神様がどんなに大きなことをしてくださったか、感謝に堪えません。

私は、幼い頃、母や姉たちに連れられて救世軍の小隊に行っていました。でも信仰がわからないまま、すぐに救世軍から離れてしまいました。そして、今まで何の信仰ももたずに生きてきました。母は亡くなりましたが、信仰につながっている姉たちの思いなど考えてみることもしない私でした。

四、五年前、自宅の本箱から聖書を見つけました。聖書は本箱の一番上の段の隅にありました。椅子に乗らないと取れない所です。聖書の表紙を開けると、

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」（ヨハネによる福音書3章16節口語訳聖書）

という御言葉と、姉の名が記してありました。はるか昔に姉から贈られたものです。ページは新しく、全く読まれた形跡がありません。それもそのはずです。そこに聖書があることすら忘れていたのですから。その時、軽い気持ちで読んでみようと思いました。

読みました。幾度も読みました。聖書は神様の愛がいっぱい書かれています。泣きました。そして気づいたのです。なぜあの時、本箱の前に椅子を持っていったのか。また、読もうと思ったのか。不思議なことですが、神様が働いてくださったとしか思えません。神様は、こんな、神様から遠く離れていた私を覚えて見放さず、見捨てずにいてくださったことを思いました。それ以後、聖書を読み続ける中で、教会につながっていたい、教会につながっていたい、と思うようになりました。

そして、昨年四月に清瀬小隊に導かれ、神様を心から信じ、今年のイースターに兵士（正式に救世軍の信徒となること）にさせていただきました。私のために、たくさんのお祈り、お支えがあってのことと思っています。感激です。小隊長（牧師にあたる）夫人や引退した伝道者の方には、聖書の学びの中で、たくさんのことを教えていただき、導いていただいています。

イースターの礼拝で、信仰に至った恵みを語る

私は、聖書を読んでいて、一つひとつの言葉に、神様の愛を感じ、ただただ感謝していますが、兵士にさせていただく時、喜びにあふれてという状態ではありませんでした。

〈こんな私でいいんだろうか〉

〈こんな未熟な……〉

〈こんな……、こんな……〉という思いに捕われ、私が兵士になることは、神様の御心ではないのかもしれない、と考えたりしました。しかし、

〈神様、助けてください〉

と祈り、いつも聖書を手にして、すがりついている状況の中、御言葉が与えられたのです。

「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。」（エフェソの信徒への手紙2章8節）

「わたしはあなたを目覚めさせ　行くべき道を教えよう。あなたの上に目を注ぎ、勧めを与えよう。」（詩編32編8節）

私はすべて、神様が導いてくださることを確信しました。

今、現在あることは、正しく神様の賜物です。今、信仰が与えられているお恵みと、故障だらけの体ですが、それでも小隊に通える体力を与えられているお恵みを、感謝しています。神様の憐みと赦しの中で、生かされていることを心から感謝しています。

これからは、ただひたすら、イエス様を見上げて歩んでいきたいと思っています。

「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」（コヘレトの言葉3章1節）

（清瀬小隊（教会）所属）

聖書の言葉

ヨハネの手紙一　四章より

神は、独り子（イエス・キリスト）を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、私たちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。（9～10節）

神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってくださいます。（16節）

わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。（19節）

著者ヨハネは、イエス・キリストの弟子の一人で、広く信徒に対してこの文書を書いた。「ヨハネによる福音書」の著者でもある。

キリトリ

□私の近くの救世軍を紹介してください。
□□キリスト教についてもっと知りたいです。
□『ときのこえ』の購読を申し込みます。

ご氏名

ご住所

この部分を封書か葉書に貼り、裏面下の救世軍にお送りください。

救世軍感謝祭募金

2012/9.15−30　秋

まだまだ暑さが続いていますが、暦では秋。もうすぐ今年の様々な実りのニュースが全国から届き始めることでしょう。

救世軍では、この時期、豊かな実りを与えてくださる神に感謝して、「感謝祭募金」をおこないます。助けを求める人々の手助けをする救世軍の働きのために、信徒自らが献金するとともに、地域の商店や事業所、各家庭を訪問して、募金をお願いしています。

今年も、各地域での働きに加えて、東日本大震災被災地救援活動も継続しておこなっております。どうぞ、皆さまの温かいご協力をよろしくお願いいたします。

2011 年〜2012 年前半　募金結果報告

2011 年	
克己週間（3〜4 月）	19,255,277 円
感 謝 祭（9 月）	19,852,753 円
社 会 鍋（12 月）	23,273,646 円
2012 年	
克己週間（5 月 31 日現在）	18,588,741 円
東日本大震災救援のための献金（国内から 2011 年 7 月〜2012 年 7 月）	約 11,000,000 円

皆様のご協力に心から感謝いたします

救世軍とは

The Salvation Army

聖書の神を信じ、イエス・キリストを唯一の救い主と信じる、プロテスタントのキリスト教会です。一八六五年、イギリスで、メソジスト教会の牧師だったウイリアム・ブースによって創立されました。本部はロンドンにあります。

日本で救世軍の働きが始まったのは一八九五（明治28）年。今年百十七年になり、下記の小隊（教会にあたる）と施設を通して働きを進めています。

救世軍の特徴は、人々の様々なニーズに応えながら神の愛を伝えていることで、どの国や地域においても、医療や社会福祉の働きを積極的に推し進めています。また、国際的な協力体制のもとで、災害被災者支援、人身売買犠牲者支援や開発途上国の自立支援、フェアトレード（公正貿易）の推進などをしています。

これらの働きを効率よく進めるために軍隊流の組織をとっています。創立当初からアルコールで苦しむ人々を支援する働きをしているため、伝道者や信徒はアルコール抜きのライフスタイルをとり、制服を着用して、救世軍に属するクリスチャンであることを表明しています。そして礼拝を守るとともに、自分にできる様々な奉仕―病院や施設でのボランティア、街頭生活者への給食や日用品配布、災害被災者支援活動など―に積極的に携わっています。

東日本大震災被災者支援では、発生直後から現在まで、被災地での給食活動や物品の配布による緊急救援活動、そして、時間が経つに連れて変化する被災地の必要を調査しつつ、現地の要請に応える長期支援活動を継続しています。このために、日本国内はもとより、海外の救世軍から多額の献金と物品が寄せられています。今年七月末までに、給食活動、物資支援、大規模支援プロジェクトのために、総額約七億円余が支出されています。

世界の救世軍――統計

活動している国と地域	124
使われている言語	175
小隊（教会）と分隊（伝道所）	15,422
各種福祉施設	6,538
病院・クリニック・巡回診療	330
各種学校・幼稚園など	2,772

（救世軍年鑑より）

全国の救世軍小隊（教会にあたる）

北海道連隊（地区）
遠軽小隊　釧路小隊　帯広小隊　札幌小隊　函館小隊

関東東北連隊（地区）
仙台小隊　浪江小隊　若松小隊　新潟小隊　前橋小隊　高崎小隊　桐生小隊　佐野小隊　熊谷小隊

東京東海道連隊（地区）
川口小隊　清瀬小隊　西新井小隊　江東小隊　上野小隊　神田小隊　京橋小隊　月島小隊　麻布小隊　渋谷小隊　杉並小隊　大森小隊　横浜小隊　清水小隊　静岡小隊　浜松小隊　名古屋小隊　岐阜小隊

西日本連隊（地区）
京都小隊　天満小隊　鶴橋小隊　西成小隊　泉尾小隊　神戸小隊　岡山小隊　福山小隊　呉 小 隊　広島小隊　高松小隊　高知小隊　八幡小隊　福岡小隊

社会福祉施設

保育所
北海道　桑園保育所、菊水上町保育園　札幌市しせいかん保育園
栃木県　佐野保育園
広島県　呉保育所

児童養護施設
東京都　機恵子寮、世光寮
大阪府　希望館
広島県　愛光園、豊浜学寮

婦人保護施設
東京都　婦人寮、新生寮

宿泊施設（男子）
東京都　自助館、新光館

特別養護老人ホーム
東京都　恵泉ホーム

ケアハウス
東京都　いずみ〔恵泉ホーム併設〕
（併設：ホームヘルパーステーションいずみ）

老人保健施設
東京都　ブース記念老人保健施設グレイス
（併設：杉並区地域包括支援センター「ケア 24 和田」、ブース記念ケアマネージメントセンター和田、ブース記念訪問看護ステーション、ブース記念訪問介護ステーション　ルツ・ナオミ）

アルコール依存症者支援施設
東京都　自省館（救護施設）、男子社会奉仕センター

二つの常設バザー場があります
●バザー場……東京都杉並区和田 2 - 21 - 2　オープン　毎週土曜　9〜14 時
●江東出張所…東京都墨田区太平 4 - 11 - 3　オープン　毎週土曜 10〜15 時

病 院

――両病院とも、（財）日本医療機能評価機構認定病院です
清瀬病院は、病院機能評価付加機能（緩和ケア機能）認定も取得

● **救世軍ブース記念病院**（ホスピス併設）
東京都杉並区和田 1 - 40 - 5　TEL 03 - 3381 - 7236

● **救世軍清瀬病院**（ホスピス併設）
東京都清瀬市竹丘 1 - 17 - 9　TEL 042 - 491 - 1411

発行日及び定価
▼発行日　毎月一日・十五日
▼定　価
一日号一部五〇円（〒六〇円）
十五日号一部六〇円（〒六〇円）
クリスマス特集号（十二月一日号）
一部一〇〇円（〒六八円）
一年分一三七〇円＋郵送料七二八円
振替・〇〇一八〇―五―四四〇〇
発行兼印刷人　救世軍　代表者　吉田　眞
編集人　齋藤　恵子
〒101―0051　東京都千代田区神田神保町二ノ十七
電話　東京(03)三三七―〇八八一
発行所　救世軍本営
印刷所　図書印刷株式会社

（取扱支部）

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

（この欄に通信文を書くと第三種扱いになりません）

創立者　ウイリアム・ブース　大将　リンダ・ボンド（万国本営　英国ロンドン）　日本司令官　吉田　眞（救世軍本営　東京都千代田区）　http://www.salvationarmy.or.jp　E-mail : webmaster@salvationarmy.or.jp